

第4章 研究のまとめ

1 本年度の研究のまとめ

本研究は、IT時代にふさわしい情報教育推進のための教職員研修の在り方について、次の三つの視点で考察を進めた。第一は「情報教育についての教職員の意識調査」、第二は「これからの校内研修の充実の方策」、第三は「WBTをはじめとする遠隔研修の具体化」である。

(1) 「情報教育についての教職員の意識調査」では、次のことが明らかになった。

ア 児童生徒に身に付けさせたい力

第一に、「情報を正しく判断・批判できる力」である。

その他の多い回答をまとめると、「ホームページで情報を検索・収集し、ワープロソフトでまとめ、プレゼンテーションソフトを使用した発表ができる力」である。

イ 教職員として身に付けたい力

「ホームページの作成と発信」と「プレゼンテーションソフトによる発表」である。

ウ 操作等の技術の習得場所

これまでは「独学」が多かったが、今後は「校内研修に期待する」という意見が多い。

エ 情報教育の平均的な校内研修

年に2.3回、1回約2時間、コンピュータ室で自作テキストを使い、情報教育担当者が策定・実施し、特別な評価は行っていないというものである。

オ 校内研修の課題

「個人差に応じた内容」「授業での活用につながる内容」「実施回数の増加」である。

(2) 「これからの校内研修の充実の方策」では、次の二点に分けて検討・整理した。

ア 授業実践に結び付く校内研修の在り方

(ア) 主として遠隔研修について、形態等の特色を整理した。

(イ) 研修と授業実践を結び付けるための模擬授業や研究授業の必要性を考察した。

イ 学校教育目標に結び付く校内研修の在り方

(ア) 学校マネジメントを行う観点からの研修評価と研修指導者としての研修評価を分離した。

(イ) 校内研修を学校経営PDSサイクルへ位置付け、学校改善に至る筋道を示した。

(ウ) 具体的に「自己理解度チェック表」「受講者アンケート」「指導者アンケート」「研修担当者・組織による研修評価」を例示した。

(3) 「WBTをはじめとする遠隔研修の具体化」では、次の点について考察し、例示した。

ア WBTによる校内研修（理想的なインターネット環境での校内研修）

イ CBTによる校内研修（現状の学校のインターネット環境での校内研修）

ウ 研修内容の例示

エ 校内情報教育研修担当者の育成

2 今後の課題

次の点について研究を深めることが課題である。

(1) 「情報教育についての教職員の意識調査」から

- ア 児童生徒にコンピュータの操作・活用だけでなく「情報を正しく判断・批判できる力」を育成するための校内研修の在り方
- イ 「開かれた学校」の推進に関連して、学校の情報発信を担う教職員の育成のための研修の在り方
- ウ 教職員が自己の情報活用能力育成を図るための体験的な研修プラン例の作成
- エ 教職員がいつでも、どこでも、自分のスキルに合った内容及び授業に生かせる内容を手軽に習得できる研修の具体化

(2) 「これからの校内研修の充実の方策」

- ア 模擬授業を含めた校内研修プランの実践とその検証
- イ 情報教育の指導者を生かす校内の組織や体制の検証
- ウ 学校改善に結び付く研修評価の実践とその検証

(3) 「W B Tをはじめとする遠隔研修の具体化」

- ア 遠隔研修の実施とその検証

3 おわりに

巻末に資料として、研究協力員の在籍校である京都府立嵯峨野高等学校及び京都府立城陽養護学校が、これまで情報教育に関する校内研修で取り組んできた内容を紹介した。

また、パソコン・インターネット活用講座（入門編）校内研修資料は、これまで当総合教育センターが研修講座として実施してきた講座内容を掲載した。

両資料とも各学校で参考にいただければ幸いである。